



# Business Report 2011

2010.4.1 - 2011.3.31

**Simplex**  
HOLDINGS, INC.

# 常識を打ち破り続けるシンプルレクスの歩み

## 1 会社設立からわずか7年11ヵ月 東証一部スピード上場

シンプルレクスが会社設立から7年11ヵ月目にあたる2005年9月に、東証一部へとスピード上場を果たしてから早5年が経過しました。創業時のベンチャーマインドを忘れることなく、これからも常識を打ち破ることで成長を遂げる存在であり続けます。

## 2 大手金融機関から信頼を獲得 圧倒的な市場シェア

シンプルレクスの金融ソリューションはいずれも大手を中心に多数の銀行、証券会社、FX事業会社などに採用されています。特筆すべきは、圧倒的な市場シェア。今後もNO.1金融ソリューションプロバイダーとしてシェア拡大を目指します。

債券システム市場シェア  
(大手証券10社中)

FXシステム市場シェア  
(取引所FX参加業者中)

9 / 10社

大証FX※ 10 / 13社

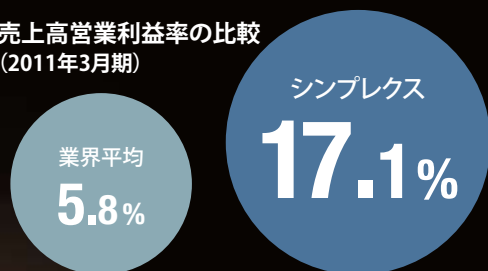
くりっく365※ 9 / 24社

※大証FXとは、大阪証券取引所の取引所FXの愛称です。  
※くりっく365とは、東京金融取引所の取引所FXの愛称です。  
※2011年3月末現在のデータです。

# 3 サービス付加価値の高さを証明 断トツに高い収益力

シンプレクスは、企業のサービス付加価値の高さを証明する物差しは収益力であると考えます。だからこそ、他の追随を許さない高い収益力は私たちの誇りです。これからも付加価値の高いサービス提供を通して、クライアントの収益最大化に貢献してまいります。

売上高営業利益率の比較  
(2011年3月期)



出典:「2010年版情報サービス  
産業基本統計調査」

## シンプレクスは 金融・IT業界の常識を またひとつ打ち破ります

新プロダクト  
金融商品取引システムのクラウドサービス

『Voyager Trading Cloud』  
(ボイジャー・トレーディング・クラウド)



※ 詳細についてはP7をご覧ください。

### CONTENTS

Special Feature: 常識を打ち破り続けるシンプレクスの歩み	1
トップメッセージ	3
Close up: 新プロダクト2011 金融商品取引システムのクラウドサービス『Voyager Trading Cloud』	7
トピックス	9
IR活動報告	10
連結決算ハイライト	11
事業別概況	12
連結財務諸表(要約)	13
会社データ・株式データ・株主メモ	14

## 現在を“第二の創業期”と捉え 成長軌道への回帰に挑みます

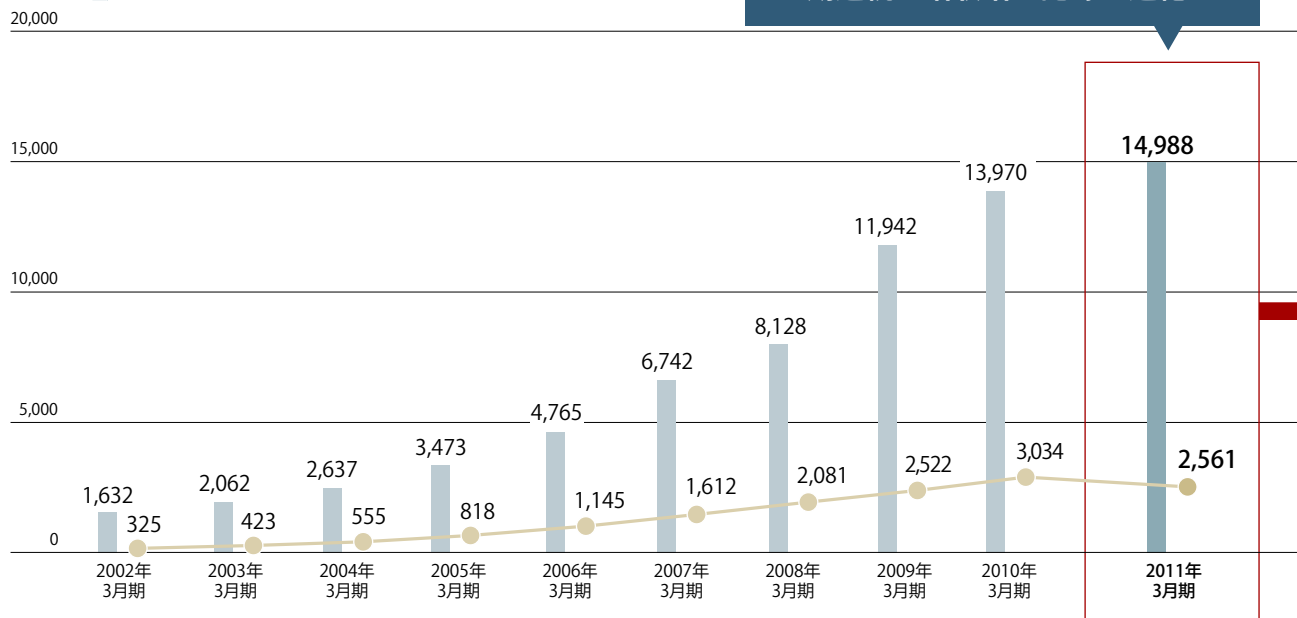
代表取締役社長 金子 英樹

*Hideki Kaneko*

## 2011年3月期の事業概況

### 売上高・営業利益の推移

(百万円) ■ 売上高 ● 営業利益



10期連続の増収増益記録が途絶える

### 2011年3月期の事業概況ポイント

- 通期業績予想の下方修正を実施
- 増収を確保するも、上場来初の減益となる
- 経営責任を明確化するため役員賞与を全額カット
- 当期の減益は一過性にとどまり、次期以降も成長継続を前提としているため配当金は期初予想を据え置く

※ 主な当期下方修正要因は次ページ参照

### 2011年3月期業績

	修正前業績予想	修正後業績予想	実績
売上高 (前期比)	165億円 (+18.1%)	150億円 (+7.4%)	<b>149億円</b> (+7.3%)
営業利益 (前期比)	38.0億円 (+25.2%)	22.5億円 (-25.8%)	<b>25.6億円</b> (-15.6%)
1株当たり 配当金	480円	480円	<b>480円</b>

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

また、このたびの東日本大震災により被災された皆さまに、謹んでお見舞い申し上げ、一日も早く復興されますよう心からお祈り申し上げます。

さて、当期の経営成績におきましては、通期業績予想の下方修正を2010年10月6日に発表いたしました。結果として、増収は確保した一方、上場来初となる減益を経験し、10期連続の増収増益の記録が途絶える結果となりました。

売上面では、当期業績予想に織り込んでいた大型SI案件の受注不調に加えて、当下期より着手した新しい金融商品取引システム『Voyager Trading Cloud (ボイジャー・トレーディング・クラウド)』(以下『Voyager』)の開発に伴って現行版システムの受注を抑制したことにより苦戦した一方、当第2四半期より連結子会社化したバーチャレクス・コンサルティングの寄与で増収を確保しました。

利益面では、大証FXの取引量の低迷や、特定のFX案件で発生したトラブル対応により、UMS(サービス)の利益率が低下したことを受けて、全体の売上総利益率が41.0%と前期比で2.1ポイント低下し

ました。また、『Voyager』を中心に積極的な研究開発投資を実施したことで、販管費率が23.9%と前期比で2.5ポイント悪化しました。このような要因により、営業利益・経常利益・当期純利益共に上場来初となる減益という結果となりました。

当社といたしましては、2002年上場来初めてとなる増収減益という結果を、経営陣及び従業員一同真摯に受け止めております。当期の経営成績に対する責任を明確化するため、役員賞与を全額カットする一方、1株当たり配当金は次期以降の成長継続を前提に期初予想を据え置き、前期比で80円増となる480円といたしました。

## 2012年3月期の見通し

### 2011年3月期 下方修正の主な要因と背景

#### ① 大型SI案件の受注不調

- 案件の大型化(10億円超)により提案活動が長期化
- 案件数の不足→案件掘り起こし力・提案力の欠如

#### ② UMS(導入)案件の減少

- 上期→昨年8月施行のレバレッジ規制で投資意欲減
- 下期→『Voyager』開発に伴い、現行版の新規受注を抑制

#### ③ 『Voyager』向け研究開発費の追加投資

- FX市場の急拡大に対するクライアントニーズへの対応
- 開発・運用コストの低減による収益力向上

2012年3月期の見通しにつきましては、2011年3月期の下方修正の主な要因を踏まえ、3つの取り組みテーマに注力することで過去最高益の達成を目指します。

まず、大型SI案件の獲得においては、セールス体制強化を通して、大型案件を常時20～30件保有できる体制の構築を目指すと共に、クライアントの収益業務を強力支援する技術力・業務ノウハウを提供してまいります。

次に、UMS(導入)案件の回復においては、既存クライアントを対象とした現行版システムから『Voyager』への乗せ換え案件を中心に

### 2012年3月期 主要取り組みテーマ

#### 1 大型SI案件の獲得

#### 2 UMS(導入)案件の回復

#### 3 『Voyager』の早期開発

売上高の向上を目指します。なお、『Voyager』の販売活動においては、既存クライアントの乗せ換え案件を優先実行していくと同時に、新規クライアントについても開拓していく方針です。

最後に、『Voyager』の早期開発においては、FX市場の急拡大に対するクライアントニーズに対応した、信頼性・機能性の高いシステムの提供を目指します。2013年3月期以降に“金融商品ワンプラットフォーム化”によるクロスセル効果に加え、運用コスト削減効果によるメリットを確実に享受することで、売上高と収益性の向上を実現してまいります。

### 2012年3月期の見通しポイント

- 通期では売上高・営業利益で過去最高値を目指す
- 第2四半期は増収となる一方、研究開発費の積極投資により減益の着地となる見通し
- 1株当たり配当金は前期比+20円となる500円を予定

#### 2012年3月期業績予想

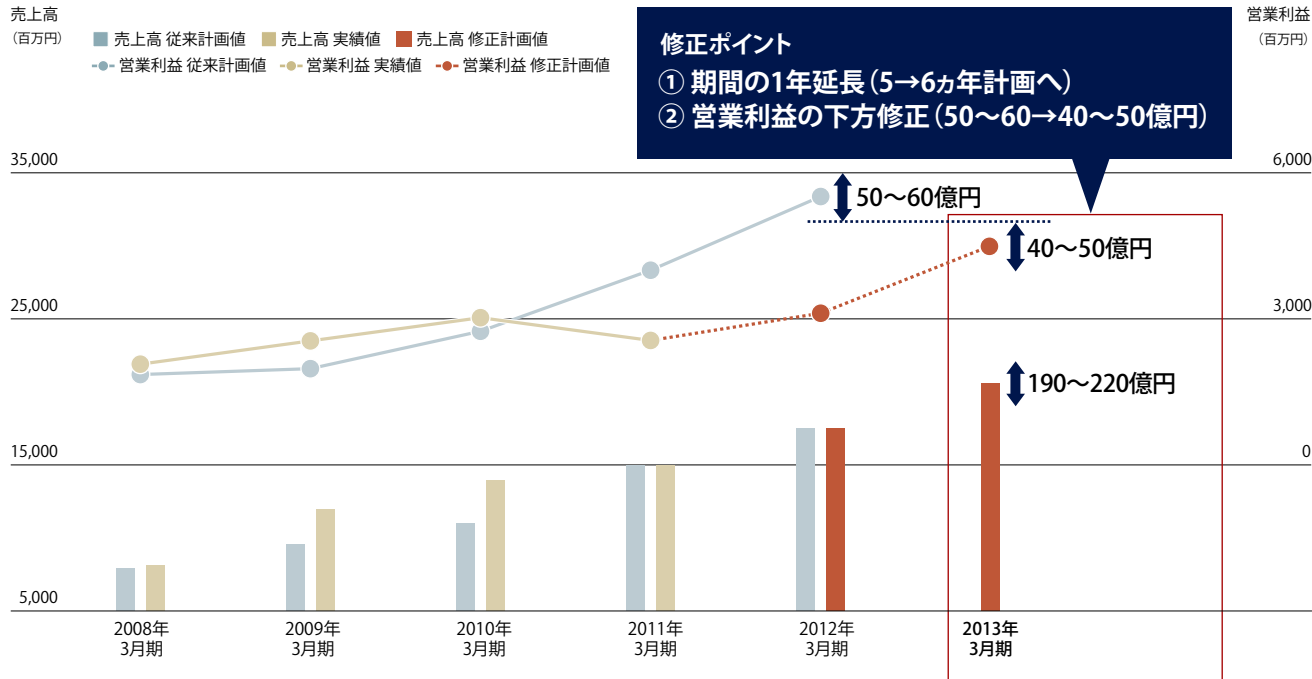
	第2四半期	通期
売上高 (前期比)	↑ 76.8億円 (+14.6%)	↑ 175.0億円 (+16.8%)
営業利益 (前期比)	↓ 11.2億円 (-3.9%)	↑ 31.0億円 (+21.0%)
1株当たり 配当金	—	↑ 500円

なお、通期では過去最高益を目指す一方、第2四半期においては、研究開発費の積極投資を実施する影響により増収減益となる見通しです。

利益配分につきましては、配当性向15%程度を目処とした業績連動型の配当とすることを基本方針としており、1株当たり配当金は前期比で20円増となる500円を予定しております。

当社といたしましては、2012年3月期を“第二の創業期”と捉え、一層の経営・事業活動に注力していくことで、成長軌道への回帰に全力で挑んでまいります。

## 修正第二次中期事業計画の概要



最後に、当社が2011年3月期の増収減益という経営成績を受けて、2011年4月27日に発表いたしました修正第二次中期事業計画についてご説明申し上げます。

修正ポイントとして、まず期間の1年延長(5→6カ年計画へ)が挙げられます。従来計画では2008年3月期から2012年3月期までの5カ年計画としておりましたが、修正計画では2013年3月期を最終事業年度といたしました。

次に、営業利益の下方修正(50～60→40～50億円)が挙げられます。これは、2011年3月期の大型SI案件の受注不調に加え、早期開

発を目指す『Voyager』に向けた積極的な研究開発投資などにより、従来計画を超過する見通しとなった販管費の見直しを行い、下方修正を決定いたしました。

当社といたしましては、修正第二次中期事業計画における重点活動項目として、機能性・信頼性の高い『Voyager』開発、セールス体制強化と大型SI案件の獲得、グローバル競争力のあるパッケージ開発の3つに注力し、目標達成を目指してまいります。

今後とも株主の皆さまには、より一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

### 修正第二次中期事業計画 重点活動項目

(2012年3月期～2013年3月期)

- 機能性・信頼性の高い『Voyager』開発
- セールス体制強化と大型SI案件の獲得
- グローバル競争力のあるパッケージ開発

**大型SI案件の獲得と『Voyager』の早期開発に注力し目標達成を目指す**

第三次中期事業計画は2013年3月期中に策定、正式発表予定

# 金融商品取引システムのクラウドサービス 『Voyager Trading Cloud』

(ボイジャー・トレーディング・クラウド)

テクノロジーと金融工学の結晶と言える金融商品取引システム『Voyager Trading Cloud』。  
圧倒的な高速性と投資家の収益を最大化させる最先端のディーリングエンジンで  
クライアントの成長と企業価値を高めます。



## 不確実な時代を勝ち抜くための 戦略ツール

私たちがこれまで提供してきた金融商品取引システム『SPRINT(スプリント)』は、非常に多くのクライアントにご支持いただいた結果、2003年のサービス開始以来、8年連続マーケットシェアNo.1を獲得してきました。私たちはその座に止まることなく、更にクライアントの期待に応えるために、このたび『Voyager Trading Cloud(ボイジャー・トレーディング・クラウド)』を開発しました。本サービスは単なるITシステムではありません。変化することが当たり前となったニューノーマル時代の熾烈な競争を勝ち抜くために開発された戦略ツールであり、金融機関の経営や個人投資家の取引に多大なインパクトを与えるものとなります。

### 特長 1 変化への適応力を高める 革新的なITプラットフォーム

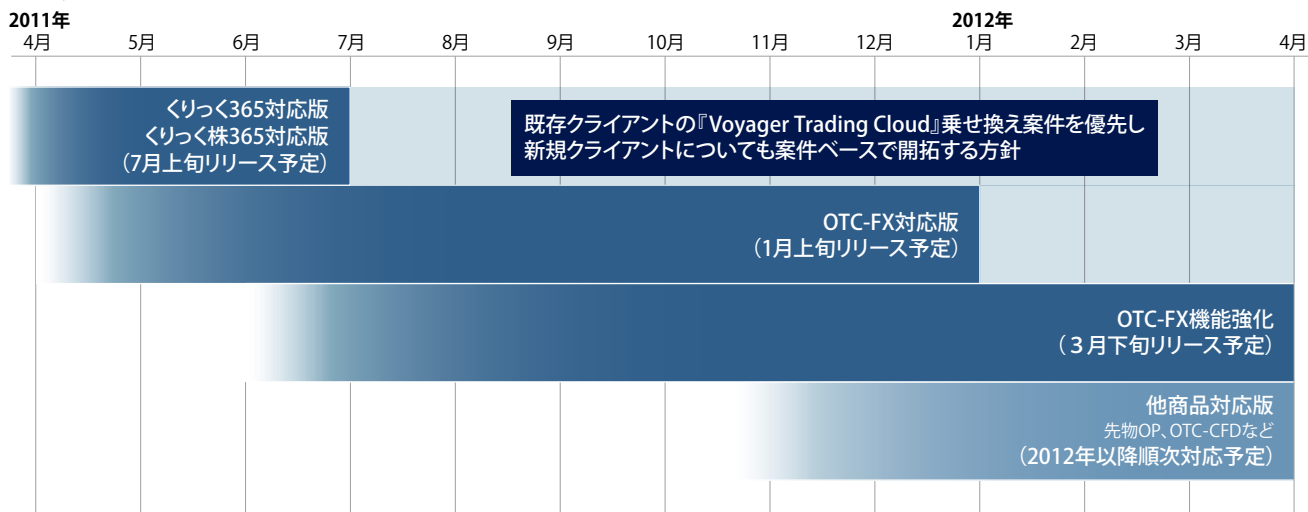
『Voyager Trading Cloud』の最大の特長は、システムのアーキテクチャ(基本構造)を階層化したことにあります。

アーキテクチャの刷新により、アプリケーション、プラットフォーム、インフラなど、各階層における設計の自由度が増し、クライアントの大きな悩みであったシステムのスケーラビリティ(拡張性)を事業の成長や環境の変化に合わせて段階的に提供できるため、ITの変化適応力を格段に向上することが可能になります。

また、他社に先駆けてクラウドサービス(SaaS)として提供することにより、システム導入期間を大幅に短縮すると共に、TCO(総保有コスト)を劇的に低減することに成功しました。

※掲載の画像はすべて合成イメージです。  
※画面は開発中のものです。実際の画面とは異なる場合があります。

## 『Voyager Trading Cloud』の開発ロードマップ



### 特長 2 ベストプラクティスによる「標準化」がもたらす真の生産性向上

金融商品取引システムにおいてマーケットシェアNo.1を誇る『SPRINT』で培ってきたベストプラクティス、すなわち業界共通の標準的な取引プロセスが『Voyager Trading Cloud』には基本機能として備わっています。加えて、独自の取引・管理機能を多数搭載することにより、クライアントは追加開発の投資を最小化するだけでなく、短期間で導入しプレーヤーとして市場に参入することができます。

クライアントは市場で競争優位を確立するために本来投資すべき「強み」の事業分野に経営資源を集中的に投入できるようになり、真の生産性の向上と更なるビジネスの成長を目指すことが可能になります。

### 特長 3 個人投資家の皆さまに新しいトレーディングスタイルを提案

『Voyager Trading Cloud』は個人投資家の皆さまにとっても、革新的な操作性を体験いただけます。これまで取引商品が異なる場合は、異なるシステムにログインし、異なる操作性の画面で取引する必要がありました。『Voyager Trading Cloud』が提供するシングルプラットフォーム・マルチ環境ではその必要がありません。同一画面で複数商品の取引ができるため、取引ニーズやスタイルに応じた投資が可能となります。

また、パソコンだけでなく携帯電話、スマートフォン、タブレットPCなど様々なデバイスに対応し、より使いやすく、より快適なインターフェースで投資家の皆さまを場所や時間という制約から解放し、新しいトレーディングスタイルを提案します。

## 『Voyager』事業責任者が語る



### 『Voyager Trading Cloud』がもたらすイノベーションと持続的成長

今回リリースとなる『Voyager Trading Cloud』は、これまでシンプレクスがクライアントと共に培ってきた革新的なテクノロジーと金融工学のノウハウの結晶と言えるものです。クライアントである金融機関だけでなく、その先にいる個人投資家の皆さまにもディーリング収益を最大化し、なおかつ安全に取引をしていただくためのツールを提供していきます。

年々厳しさを増す市場環境の中で、クライアントと共にWin-Winの関係を構築していくためにも、『Voyager Trading Cloud』を導入いただき、持続的な成長のサポートをさせていただきたいと思っております。

ITにおけるイノベーションとビジネスモデルの斬新性を兼ね備えた『Voyager』事業の成長に、ぜひご期待ください。

コーポレート・イノベーション・グループ 執行役員

竹内在

## 2010.4

### 新卒向けシリコンバレー研修を実施

2010年4月に入社した54名の新卒社員に対して、金融・ITトレーニングを集中して行うシリコンバレー研修を実施しました。



## 2010.7

### ウェブサイトを全面リニューアル

株主の皆さまに当社の取り組みをより深くご理解いただくことを目指して、ウェブサイトを全面リニューアルしました。



日興アイ・アール  
ホームページ  
充実度ランキングで  
優良サイト受賞

## 2010.9

### 個人投資家向け会社説明会を開催

東京、大阪、札幌にて個人投資家向け会社説明会を開催しました。説明会当日は多数の投資家の皆さまにご来場いただきました。



2010年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

10月

11月

12月

2011年

1月

2月

3月



## 2010.6

### 定時株主総会／株主懇親会を開催

6月20日(日)の定時株主総会に加えて、質疑応答を中心とした株主懇親会を開催し、200名を超える株主の皆さまにご出席いただきました。



## 2010.8

### バーチャレクスを連結子会社化

CRMソリューション開発に特化したバーチャレクス・コンサルティングを、持分法適用会社から連結子会社へと異動しました。

純粋持株会社(東証一部上場)

株式会社シンプレクス・ホールディングス

主な事業会社

100%

株式会社シンプレクス・コンサルティング

51%

バーチャレクス・コンサルティング株式会社

## 2010.10

### 持株会社体制への移行と商号変更

さらなる成長を目指して、2010年10月1日付けで持株会社体制へと移行し、株式会社シンプレクス・ホールディングスへと商号変更しました。

シンプレクスは、2009年11月2日に上場企業初となる「IR宣言」を発表いたしました。  
これからも常に明瞭な企業メッセージを発信することで、株主の皆さまのニーズに応えるIRを目指してまいります。

シンプレクス・ホールディングスIR宣言

- 1 IR活動を経営の最重要項目のひとつとして位置づけます。
- 2 東証一部上場のパブリック企業として説明責任を果たし、常に明瞭な企業メッセージを発信いたします。
- 3 業績動向や事業環境に関わらず、一貫して公正で信頼性の高い情報を開示いたします。
- 4 企業認知度の向上を目指すとともに、すべての利害関係者に対して公平かつタイムリーな情報開示に努めます。
- 5 株主・投資家とのコミットメントを遵守し、ゆるぎない信頼の構築に努めます。

2011年3月期におけるIR活動の実践状況

主なIR活動

- ホームページの全面リニューアル (2010年7月実施)
- アナリスト・機関投資家向け個別取材 (件数: 135件)
- 個人投資家向け会社説明会 (開催回数: 4回 / 動員人数: 821人)
- 決算説明会資料の充実とレベルアップ
- アナリスト・機関投資家向け決算説明会 (開催回数: 2Q・3Q・4Qの計3回実施)
- 株主総会の土日開催

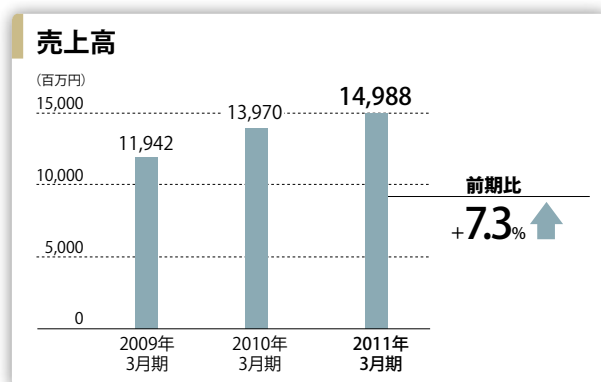
IR活動の成果

- カバーアナリストの増加 (10/3期初: 2名 ⇒ 11/3期末: 5名)
- 2010年度全上場企業ホームページ充実度ランキング (日興アイ・アール) で優良サイトに選定される

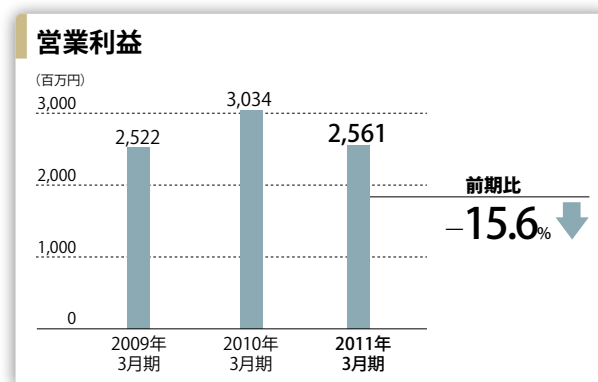
2012年3月期におけるIR活動指針とその実践項目

IR活動指針	IR活動指針の実践項目	
積極的なIR	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人投資家向け会社説明会を年4回開催</li> <li>● アナリスト・機関投資家向け決算説明会を年3回開催</li> <li>● 上記説明会についてはすべてCEO金子が直接説明し、すべての質問に回答</li> <li>● 上記説明会のIR資料や質疑応答の内容については、可能な限りウェブサイトに公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● アナリスト・機関投資家との個別取材については、すべての取材依頼に対応</li> <li>● 上記個別取材においては、CEO金子またはIR担当執行役員澤田のいずれかが対応</li> </ul>
わかりやすいIR	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 決算説明会資料を中心とした各種IR資料の継続的な改革</li> <li>● 2010年7月に全面リニューアルしたウェブサイトの充実</li> <li>● 定性情報の積極的な開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 個人投資家向け会社説明会及びアナリスト・機関投資家向け決算説明会の動画配信を実施</li> </ul>
開かれたIR	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主・投資家の声を経営にダイレクトにフィードバック</li> <li>● IR活動報告を定期的にウェブサイトに公開</li> <li>● 電話やメールでの問い合わせについては、基本的にすべてに対応</li> <li>● 多く寄せられる質問に関しては、ウェブサイトのFAQコンテンツに掲載</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 株主総会の土日開催</li> <li>● 書面での議決権行使に加えて、インターネットによる議決権行使を継続実施</li> <li>● 株主総会や株主懇親会では基本的に質問すべてに対し、議長を務めるCEO金子が回答</li> <li>● すべての質疑応答の内容をウェブサイトに公開</li> </ul>
株主満足度を高めるIR	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中期事業計画の明確な業績目標の提示</li> <li>● 修正第二次中期事業計画の最終年度の売上高、営業利益の下限値を株主へのコミットとする</li> </ul>	

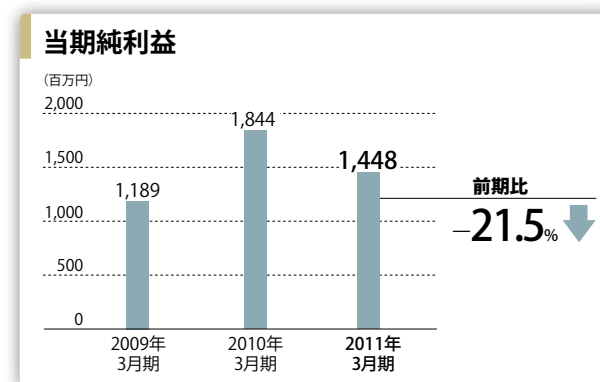
## 連結決算ハイライト



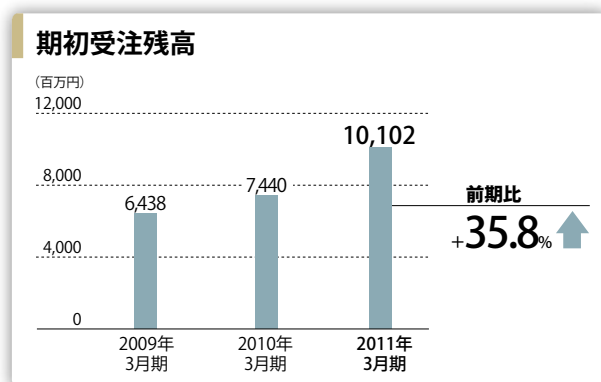
大型SI案件の受注不調に加え、UMS (導入) 案件が減少した一方、バーチャレクスを連結子会社化した影響により、売上高は前期比+7.3%となる14,988百万円となりました。なお、2012年3月期は17,500百万円(前期比+16.8%)を見込んでいます。



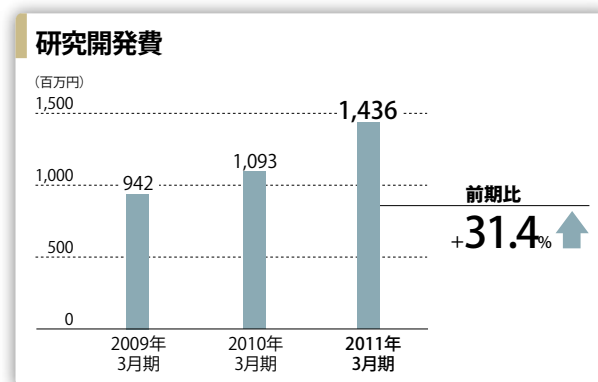
UMS (サービス) の売上総利益率の低下に加え、研究開発費増に伴う販管費率の悪化などで営業利益率が低下したことにより、営業利益は前期比-15.6%となる2,561百万円となりました。なお、2012年3月期は3,100百万円(前期比+21.0%)を見込んでいます。



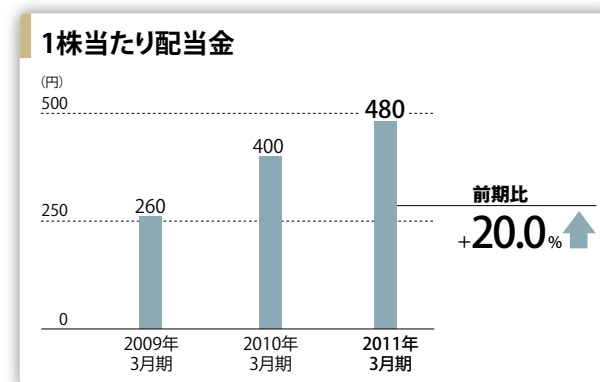
営業利益が減益着地となったことに加え、過年度分の資産除去費用などを中心として特別損失を2.3億円計上したことにより、当期純利益は前期比-21.5%となる1,448百万円となりました。なお、2012年3月期は1,700百万円(前期比+17.4%)を見込んでいます。



成功報酬ストック型収益であるUMS (サービス) の受注が順調に積み上がったことに加えて、バーチャレクスを連結子会社化した影響により、期初受注残高は過去最高水準となる前期比+35.8%の10,102百万円となりました。



金融商品取引システムのクラウドサービス『Voyager』開発を中心として集中的な先行投資を実施したことにより、研究開発費は前期比+31.4%の1,436百万円となりました。なお、2012年3月期は1,500百万円(前期比+4.5%)を見込んでいます。

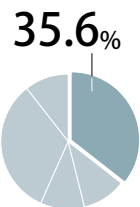


通期業績予想の下方修正を実施した一方、1株当たり配当金は今後の成長を勘案して期初予想を据え置いたため、前期比+20.0%の480円(配当性向:18.3%)となります。なお、2012年3月期は500円(前期比+4.2%/配当性向:16.3%)を見込んでいます。

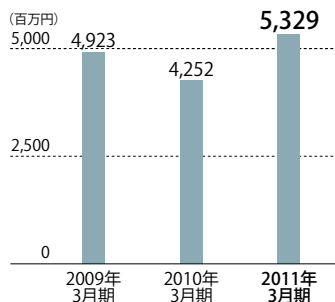
フロー型収益(売切り収益)

**SI(システム・インテグレーション)**  
クライアントの要望に沿った受託開発

売上高構成比



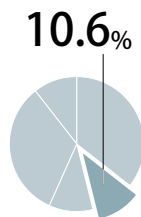
売上高



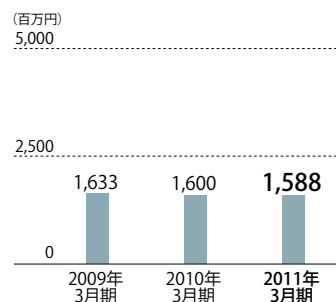
ストック型収益(安定収益)

**システム保守**  
受託開発システムの運用・保守

売上高構成比



売上高



**SI** 事業 受託開発型ビジネス

大型案件の受注不調の影響を受けてSIが伸び悩む

2011年3月期ハイライト

SIは大型案件の受注が不調となり、小・中規模案件中心の構成となりましたが、前期が低調だった反動で増収となりました。保守はSI案件の新規契約が少なかった影響により、ほぼ横ばいで推移しました。

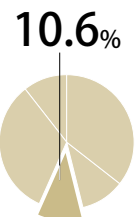
2012年3月期に向けて

SIは既に受注している一部のテストプロジェクトの成功を通して、大型案件の正式受注に注力し、売上高6,400百万円を見込んでいます。保守はSI案件の増加に連動することから、売上高1,700百万円を見込んでいます。

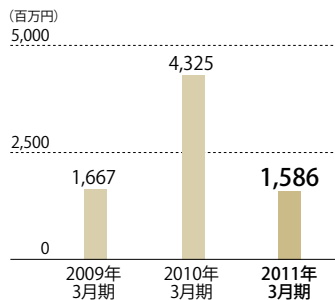
**UMS(導入)**

UMS(サービス)の導入・機能追加

売上高構成比



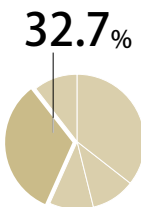
売上高



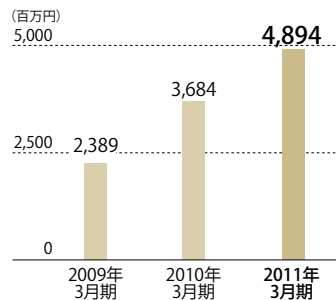
**UMS(サービス)**

成功報酬型のサービス利用収入

売上高構成比



売上高



**UMS** 事業 サービス提供型ビジネス

新規導入案件が減少するもストック型収益は拡大

2011年3月期ハイライト

UMS(導入)は現行版システムの受注抑制に加え、前期に特例的な大型案件が2件あった反動で大幅減収となりました。UMS(サービス)は前期に契約した新規案件分が寄与したため増収となりました。

2012年3月期に向けて

UMS(導入)は積極的な研究開発投資を通して開発した『Voyager』の導入案件を中心として、売上高2,100百万円を見込んでいます。UMS(サービス)は新規クライアント獲得件数を保守的に見込み、売上高5,200百万円を見込んでいます。

## 連結財務諸表(要約)

### 連結貸借対照表

(百万円)

科目	期別	
	当期(2011年3月期) 2011年3月31日現在	前期(2010年3月期) 2010年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	8,315	6,618
固定資産	3,205	3,727
有形固定資産	739	917
無形固定資産	637	306
投資その他の資産	1,828	2,502
資産合計	11,521	10,345
<b>負債の部</b>		
流動負債	3,317	3,434
固定負債	704	1,050
負債合計	4,022	4,484
<b>純資産の部</b>		
株主資本	7,032	5,777
資本金	368	368
資本剰余金	316	316
利益剰余金	7,811	6,726
自己株式	△1,463	△1,633
その他の包括利益累計額	△24	18
新株予約権	91	64
少数株主持分	399	45
純資産合計	7,499	5,860
負債純資産合計	11,521	10,345

### 連結損益計算書

(百万円)

科目	期別	
	当期(2011年3月期) 2010年4月1日～2011年3月31日	前期(2010年3月期) 2009年4月1日～2010年3月31日
売上高	14,988	13,970
売上原価	8,845	7,949
売上総利益	6,143	6,020
販売費及び一般管理費	3,581	2,986
営業利益	2,561	3,034
営業外収益	21	28
営業外費用	67	53
経常利益	2,514	3,009
特別利益	102	7
特別損失	235	56
税金等調整前当期純利益	2,382	2,960
法人税等合計	875	1,115
少数株主損益調整前当期純利益	1,506	—
少数株主利益	58	—
当期純利益	1,448	1,844

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	期別	
	当期(2011年3月期) 2010年4月1日～2011年3月31日	前期(2010年3月期) 2009年4月1日～2010年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,711	1,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	290	△987
財務活動によるキャッシュ・フロー	△708	△641
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	△4
現金及び現金同等物の増減額	2,291	△232
現金及び現金同等物の期首残高	2,722	2,955
現金及び現金同等物の期末残高	5,014	2,722

## 会社データ

### 会社概要

商号	株式会社シンプлекс・ホールディングス Simplex Holdings, Inc.	
本社所在地	〒103-0027 東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋一丁目ビルディング16F	
お問い合わせ先	Tel : 03-3278-6829 E-mail : ir@simplex-hd.co.jp	
設立	1997年9月	
資本金	368百万円	
事業内容	純粋持株会社	

### 役員

代表取締役社長	金子 英樹	社外取締役	四塚 利樹 (早稲田大学大学院教授)
取締役副社長	五十嵐 充	常勤監査役	宮地 巖
取締役副社長	田中 健一	常勤監査役	中条 稔夫
取締役副社長	福井 康人	監査役	倉澤 和夫 (弁護士)
執行役員	澤田 正憲		
執行役員	助間 考三		
執行役員	山本 元		

### 沿革

1997年9月	外資系金融機関で金融フロンティアの実務とITサポートを行っていたメンバーを中心に「株式会社シンプлекс・リスク・マネジメント」設立
2000年2月	「株式会社シンプлекс・テクノロジー」に社名変更
2002年2月	JASDAQ市場に株式上市(証券コード4340)
2002年4月	業容拡大のため、本社を中央区新川(茅場町)から港区虎ノ門(神谷町)へ移転
2004年5月	東京証券取引所市場第二部上市
2004年6月	業容拡大のため、本社を港区虎ノ門(神谷町)から中央区日本橋へ移転
2005年9月	東京証券取引所市場第一部上市
2010年10月	「株式会社シンプлекс・コンサルティング」を新設継承会社とする会社分割を行い、純粋持株会社制を導入 「株式会社シンプлекс・テクノロジー」から「株式会社シンプлекс・ホールディングス」に商号変更

## 株式データ (2011年3月31日現在)

### 株式状況

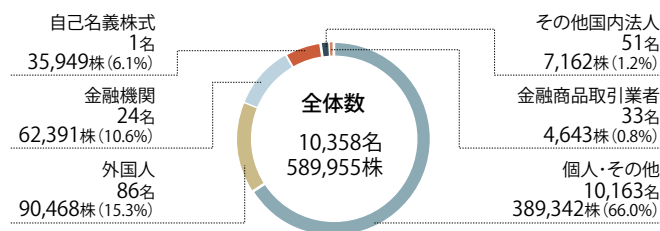
発行可能株式総数	2,200,000株
発行済株式の総数	589,955株
株主数	10,358名

### 大株主

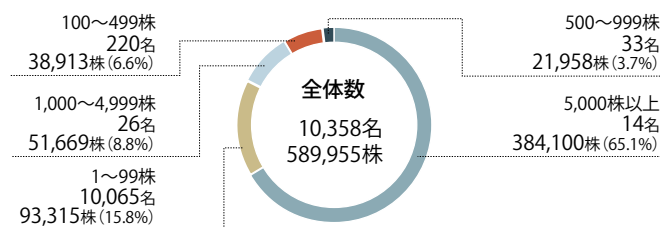
株主名	所有株数 (株)	持株比率 (%)
三上 芳宏	125,438	22.6
金子 英樹	37,735	6.8
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー	35,742	6.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	31,090	5.6
五十嵐 充	29,675	5.4
福山 啓悟	22,750	4.1
田中 健一	20,375	3.7
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー-505025	12,481	2.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,419	1.9
四塚 利樹	7,500	1.4

上記のほか、自己名義株式35,949株を保有しております。

### 所有者別株式分布状況



### 所有数別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月開催
基準日	① 定時株主総会 3月31日 ② 期末配当 3月31日 ③ 中間配当 9月30日
配当金支払受領株主確定日	3月31日
中間配当金支払受領株主確定日	9月30日
会計監査人	太陽ASG有限責任監査法人
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人事務取扱場所	東京都中央区八重洲二丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物の送付先及び電話照会先)	〒183-8701 東京都府中市日綱町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-176-417
公告掲載	電子公告
貸借対照表及び損益計算書掲載のホームページ	<a href="http://www.simplex-hd.co.jp/">http://www.simplex-hd.co.jp/</a>
売買単位	1株
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
証券コード	4340

**Simplex**  
HOLDINGS, INC.

**株式会社シンプレクス・ホールディングス**

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-4-1 日本橋一丁目ビルディング16F

Nihonbashi 1-chome Building, 16th floor, 1-4-1, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027 Japan  
Telephone: 03-3278-6829(main) Facsimile: 03-3548-7253

E-mail: [ir@simplex-hd.co.jp](mailto:ir@simplex-hd.co.jp) URL: <http://www.simplex-hd.co.jp/>